



2022年10月  
第730号

日本基督教団 平塚教会  
発行人 平塚教会  
編集人 中山洋司  
〒254-0045 平塚市見附町6-18  
電話 〇四六三(32)八八三一



# 世の終わりまで続く教会

平塚教会牧師 北川一明

更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。

(黙示二一・二)

神の教会は世の終わりまで続きます。終わりの時、命の書に名を記されている人は、エルサレムの新居に移住できるようです。その命の木実はたぶん食べ放題です(黙示二二・1、2)。現実の各々の教会は、世の終わりまで続く公同教会の枝という位置づけです。

ところが枝が弱ってきています。日本キリスト教団の教会の多くが衰えています。「世の終わりまで」どころか三十年後にどれだけ残っているか怪しい所です。自分の名が記されている命の書が紛失したら困ります。

そんな中でも三十年後もあるだろうと感じさせる教会には、大きく分けて二種類あります。

一つはアットホームな雰囲気の家族的な教会です。新来会者は人間関係のある人だけで、ごく少数です。雰囲気に馴染めば教会員になりますが、信仰の志を立てて受洗するというよりは、人間関係に引きずられた受洗が多いようです。すると信仰も教会に対する自分の責任も分かります。

教会が高齢化すると、家族を持つ牧師の生活は支えられません。そこで年金で自活している高齢牧師を招きます。牧師と教会員は年が近いので話が合い、互いに居心地が良くなります。現在の平均年齢が六〇代であれば、三十年後は平均年齢九〇歳で細々と続いているでしょう。ただ世間からは相手にされません。礼拝は捧げていても、中身は私的な交わりだからです。三十年は続いても、五十年は無理でしょう。

もう一つ公共性を保っていて三〇年後も残りそうな教会も知っています。神学生時代と教務教師(学校の牧師)時代に東京と神奈川で幾つか見してきました。

それらの教会は、どこも牧師が説教に相当な準備をしており、信徒は説教に一定の信頼を置いています。ただ牧師が自分で思っているほどは説教に期待していない様

## 目次

世の終わりまで続く教会 牧師 北川一明	…1	元気です①	中村 義	…4
附属二葉幼稚園	関口華子	…3	編集後祈	…4

子でした。

そうした教会で信仰が継承されるのかと言えば、私の見るところ、継承されているのは「信仰」ではなく「信仰生活の文化」すなわち教会員たるものの習慣です。

その中で一部の信徒は信仰を真剣に考えます。文化だけでなく信仰そのものを受け継いでいるのはその一部の人たちです。自身の教会に対する信徒の責任を考えているのはその人たちだけでも、全体の母数が多いので教会を支える人数は足りるのです。

そうした教会でも、アット・ホームで家族的な雰囲気があります。みなさん礼拝後に信仰とは無関係の世俗的、人間的な交歓を楽しんでいました。信仰文化が浸透しているので、世俗的な遊びも信仰の妨げにはなりません。むしろ文化を伝承する機会になっっています。

そうした教会にもう一つ共通しているのは、電話をかけるのと牧師や牧師夫人ではない人が電話に出ることです。担当者に給与か日当を出している所と教会員が奉仕で電話番号をしている所とあります。

電話番号一人では退屈だろうと思うと、実際は違います。担当者は一人でも、何人か

の教会員が遊びに来ていて電話担当者との私的なお喋りを楽しんでいます。担当者が席を立つと他の人が電話に出ます。公的な電話応接ルールが共有されているので、電話がかかって来た途端に、楽しい私的なグループは瞬時に「おおやけの教会」に戻ります。

そうした教会は全て、家族的でアット・ホームなグループが複数あります。

悪く言えば「派閥」ですが、それが善い方向に働いています。新来者は自分の居場所を見つけるのに複数の選択肢があります。また教会の公的性格が保たれているので、既に出来上がっている人間関係に入るのが煩わしい人は、独りで礼拝できます。牧師は「俺は説教に命をかけている」とカんでいるので一つのグループに肩入れすることはありません。結果として教会の雰囲気や良くなるのに役立っていました。

礼拝後の遊びは私的な性格が強いです、信徒は知り合いの未信者を気軽に誘います。そこで、それらの教会は全て、信徒が新来者を集める流れが出来上がっていました。伝道困難と言われる時代であっても右肩上がりが続いています。

私の妻の牧する教会は、礼拝出席が伝道師を入れて四人です。家族的でアット・ホームであることで教会が私的なものにならないよう、公共性を保つのに苦勞します。近隣（西湘南地区）には家族的で楽しいグループを複数持つことが出来る教会が、まだ三、四教会残っています。わが平塚教会も、そうした教会の一つです。

今のうちに公共性を確かなものにして、新しいエルサレムが降る時、命の木の実に与りたいものです。世の終わりには、教会を真剣に支えた人だけが命の書に名前が残っているのでしょうか。それとも洗礼を受けてさえいればどんな教会生活でも関係ないのでしょうか。それは私たち人間には分かりません。ただ自分の教会を世の終わりまで続かせようと努めた人は、そうした努力を通して神の不思議な力を感じる機会が増えるのは確かです。



## 附属二葉幼稚園

### 「先生聞いて」

関口華子

この二年間幼稚園の行事は大きく様変わりしました。できないことが多かった中で、「できること」がこんなにも感謝することだったと、気づかされることの多い毎日です。今年の夏は年長だけ、流しそうめんもできました。流れてきたそうめんを必死に割箸ですくいあげ、部屋に入って別のお箸で食べます。無くなったらまたお箸を変えて取りに来て部屋に戻って食べるを三回程繰り返ししました。感染対策を取ったため普通の流しそうめんとは大部違う光景でしたが

「あ~~~~楽しい!!」

「おいしそうめん! 最高!!」

と、子ども達の輝いた笑顔をたくさん見ることができました。

二葉幼稚園は収容定員80名。施設給付型幼稚園としての利用定員は60名となっています。平塚市の子どもが減ると同時に、幼稚園より保育所への入所が年々増えています。そんな中でも、毎年安定した人数を与えられていることは大変感謝です。一

クラスの人数が20〜25名ですと、担任も一人一人の子どもをよく見ることができます。また、二葉幼稚園は、昔から「全員の先生でみんなを見る」保育を行ってきています。担任だけで自分のクラスの子を見るのではなく、全クラス一緒に遊び、皆で見るので、子ども同士も仲良くなります。

先生と一緒に遊んでくれ、ちゃんと話を聞いてくれる。この土台があって子ども達は安心して遊べ、また人の話も聞けるようになることでしょう。だから先生が一方的に話して聞かせるだけでは駄目で、子どもが自分で話したいことをしっかり聞いてあげる姿勢が必要です。そして、自分で考えてお話しすることに心と耳を傾けるには忍耐力が必要です。

園庭にある「たいこばし」に毎日のように子ども達が腰掛け、先生に一生懸命お話をしている姿を見かけます。先生の目は園庭の全体の安全を見ながらも、子どもの話に領き、笑っておしゃべりをしています。家族のこと、昨日見たテレビやYouTubeのこと。生き生きとおしゃべりをして、生き生きと話を聞いている先生。幼稚園のあるべき姿だと思っています。教会の談話室からは、園庭で楽しく遊ぶ園児の姿が良くご覧

になれます。火・木・金曜日は山田姉が談話室に居ります。ぜひ保育の様子を覗きにいらして下さい。教会員の皆様には日頃より幼稚園を暖かな眼差しで祈って下さっていることを感謝致します。今後も園庭や園舎で過ごしている子ども達の様子を、おとずれを通してお伝えしたいと思っています。

これから、幼稚園は運動会に向けての活動が始まります。運動会を終えると10月の半ばより園児募集が始まります。次の年から三年間二葉幼稚園で過ごす子ども、保護者との出会いの季節です。一人でも多くの子どもと保護者が神さまと出会うことができようお祈り下さい。そして二葉幼稚園をご紹介していただけたら幸いです。ご紹介の際には、ぜひともお名前お申し出ただけですと、よりよいコミュニケーションが取れます。ぜひ紹介者のお名前をおしゃっていただくよう、ご紹介の方にお伝え下さい。

#### 入園説明会

十月十五日(土) 十時〜十一時

#### 願書受付

十一月一日(火) 九時半〜十時

\*願書は説明会にてお渡し致します。

## 元氣です ①

コロナに負けない教会員の皆様のお元氣な様子を紹介します。手記・インタビュー・お手紙ありのシリーズです。紙面交流が出来たらと願っています。

第一回目は中村義姉です。

「元氣です」でも、

記憶をたどる事が多くなりました

今年百四歳になりました。一九一八(大正七)年四月二四日が誕生日です。住所録の最後にある受洗記録表では、信仰50年が二回来たことになりました。年齢と、信仰歴が同じで、おかしいなと思われるでしょうが、熱心だった母の意向で、生後八ヶ月で幼児洗礼を受けました。教団の規則では、信仰告白式を経なければ、教会員となれないのですが、これには訳があります。戦後、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)から引揚、日本国内での点々とした仮住い、新潟・平塚と居住地が定まるまでの長い過程で、教団の規則の知識も、制度の気付きも無く、「クリスチャン」だと思ひ込んだ生活の中で、正式な手続きを行うチャンスが無かったのが実際の理由です。幼児洗礼の日を、

信仰告白の日と認めて下さった岡本不二夫牧師、当時の役員会の方々には感謝しております。

自宅でヒムプレーターによる讚美歌のメロディーが流れると、日曜学校(今の教会学校)で覚えた歌詞が、時には韓国語で、また日本語で出て来たりします。それほど昔の記憶は、奥深く残っているのですね。何度も聞いた聖書のことばは、昔の聖書のまま文語体で思ひ出します。幼かった時から今に至るまで、聖書の言葉は、生活の中で大きく影響していました。

礼拝も失礼し、家では、書いたり読んだりが出来なくなり、ほとんどベッドの周りで過ごし、ポータブルトイレのお世話になっています。現在は、土屋にあるローズヒルのデイサービスに週三回送迎され、入浴と昼食を頂き、軽い体操を続けながら通っております。今まで御守りの中にあり、これからも神様にお任せしています。

最近、昔生活していた町並みや、近所にいた人達を思ひ出すことが多く、言葉に出るのも幼い時のことばかりです。今の家族と話しながらも、昔の町並みや、近所の人々が重なり、変な話になることもあります。時には半日くらい記憶の中に遊ぶことが目立ってきました。それほどに昔の生活

場面は奥深く心の中に残っているものです。思ひ出すことの中には、湘南キリスト教墓苑のこと、中村一誠のお葬式もあります。何となく近く感じるようになってきているのでしょうか。ペン習字のこと、展覧会の準備や教室での練習風景なども思ひ出すことの中で、二番目くらいになっています。取りあえず元氣にしております。感謝!!



先生に、ペン習字のお弟子さん方からケーキをいただきました。

(自分では書けなくなり、聞き書きの形でまとめてもらいました。)

## 編集後祈

68年前の10月26日第8回教団総会で信仰告白が制定されました。ご自分の信仰を見直す良い月となりますように

(編集子)